

20014

血管造影室コメディカルスタッフの相互理解と教育を深めるための新たな試み

¹神戸大学医学部附属病院

加藤 雅子¹、野間 聡子¹、福富 朗世¹、岩井 謙典¹、谷岡 怜¹

目的当院の血管造影室では、看護師、放射線技師、臨床工学技士が検査・治療を支えている。他職種がどういった視点で検査を把握しているかを理解し、それぞれの役割に責任を持ち、よりよいコミュニケーションのもと連携していけば、チーム医療が促進されるのではないかと考えたため。方法 INE, ITE を中心とし、血管造影室に携わる看護師、放射線技師、臨床工学技士を対象に2015年9月にコメディカル連携の会を立ち上げ現在までに3回開催した。第1回は冠動脈模型を作製し、作製した模型を元に冠動脈画像の見方を放射線技師より解説を行った。第2回は各部門が検査中何を大切にして検査に関わっているかを解説した。第3回は急性下肢動脈閉塞症の3事例の症例検討を行った。その会毎にアンケートをとり集計した結果アンケートは看護師、放射線技師、臨床工学技士全ての人を対象とした。結果では視覚的、体験型学習を取り入れたことにより、学習会に興味を持てた。情報を共有することの大切さに気がついた。共通言語の理解ができた。お互いを理解した上でのコミュニケーションをとる大切さが理解出来た。他職種を理解しているつもりでも、知らないことがたくさんあることが分かった。改めて時間を作り共有することが大切、誰でも参加出来てなじみやすい会にして欲しい。という意見があげられた。結論会を立ち上げたことによって、時間をもうけ相互理解と教育の大切さを再確認した。これからも誰でも参加出来る会を目指し、発展させていくことが必要だと感じた。